

理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948-1

一〇・二二

印教研 理科研究部集案会
講評と△委員の声

十月三日、成田小学校を会場に印教研の研究集会が行われました。
小学校・中学校合わせて約三百名の会員の先生方が参加して、活発な
討議がなされました。今号は、小学校分科会の様子を特集しました。

小学校低学年 講評
安井 寅蔵先生

本年度の研究提案は、テーマか
らは「興味・関心」に視点を当て
たもの、「学ぶ力」に視点を当て
たもの、この二つに大別できる。

○コンピュータ導入による興味・
関心の高め方

○理科的心情を高めるための興味
・関心を持たせる場の設定

○生物への興味・関心の高め方
○学ぶ力を高める場の設定と授業
改善・学習形態

以上は各部会の提案の要約であ
る。各部会がグループ研究を重ね
その結果として互いに成果を認め
あえたことはよろこばしいことと
ある。提案より気がついたことは
次のようなことである。

一、理科的心情を育てるための指
導の提案があったが、感動とか

なるものと思われるし、個を重
視した学習指導として現場に望
まれる姿勢と思われる。

三、指導の難しい単元、内容とし
て、視覚でとらえにくく、手に
触れにくいものがある。そうし
た直接体験しにくい教材をコン
ピュータシミュレーションの活
用で効果をあげたいとする提案
があった。個の活用が理科的能
力の育成にマイナスに働かない
よう留意しつつ前向きに取り組
む時代であるのではないかと思
う。

小学校高学年 講評
石田 政光先生

今日声高に叫ばれている「理科
離れ」の主要因は、現在の理科教
育が子供たちの知的好奇心に込め
ていないからではないかと言われ
ています。一般に子供たちの自然
科学への興味は、自然体験のごく
ごく素朴な知的好奇心を満たすと
この喜びに始まるものです。それ
はきつと、誰もが体験してきたは
ずの草花集めだったり、昆虫採集
だったり、また夜空に光輝く星を
肉眼であるいは望遠鏡で覗いた時
のような感動が探求心の芽生えに
なったもののはずです。多くの場
合この子供たちの素朴な芽生えが
助長されることなく、机上の学習
に追いやられてしまい、興味の目
が消滅してしまうことになりまし
う。今年度の各部会の取り組みには

△委員の 声

低学年分科会より

原山小 坂田 裕一

高学年分科会より

久住一小 荒金 誠司

「理科はなれ」が問われている
中、各部会の熱心な取り組みを聞
き、「本当にそんな現実がありう
るのか」と、思いました。
児童の興味・関心を高める指導
や感動を呼び起こす指導、学ぶ力
を育てる指導など、どれをとって
も素晴らしい資料であり、実践で
あり、学校へもちかえってすぐに
でも使えるものばかりでした。
中でも第二部会の提案に興味をそ
そられました。各学校にコンピュ
ータが設置され、それを各教科で
利用していくのには、まだ無理が
あると思われまふ。特に理科など
では、直接体験重視とよくうたわ
れます。直接体験しにくいものの、
失敗しやすいものをコンピュータ
で代用してしまう恐れが少しはあ
ると思うのです。また、コンピュ
ータそのものでは何もできなく、
ソフトというたいへん高価なもの
を利用しなくてはならないという
大きな問題をかかえています。理
科学習でのコンピュータの在り方
使用事例など来年度の提案がとて
も楽しみです。

質疑応答の中で、中学校の方が
意見を述べてくださいました。地
域性のこと、中学校でのことなど
たいへんためになりました。こう
いった情報交換、つながりが大切
であると感じました。

また、いくつかの部会から、コ
ンピュータ機能を取り入れた提案
がありました。今日の情報教育の
進展からすると遅いぐらいの気が
しないではありませんが、大変積
極的な実践が見られました。シミ
ュレーションの導入は視覚に訴え、
概念的な理解をさせる上では効率
的な方法のように思えますが、そ
の一方で作りものの感を拭きま
せん。実証性や客観性という観点か
らの吟味を常に行うことが大切だ
と考えられます。

理科教育は文字通り「はだかの
自然」を相手にする学習です。そ
んな自然への関わりを、最重点に
した各部会の積極的な取り組みは
今後更に期待されるところです。

しかし、どんな素晴らしい研究
でも、発表を聞いて終わりにして
しまったら、子どもたちのための
ものになりません。研究されたこ
とを広め、それをいかに日常の授
業の中で実践していくかが、私達
会員一人ひとりの課題ではないか
と思います。